

駅馬車 (1939)

STAGECOACH

| | |
|-------|--|
| メディア | 映画 |
| ジャンル | 西部劇 ドラマ |
| 製作国 | アメリカ |
| 色彩 | B&W |
| 時間 | 99分 |
| 初公開日 | 1940/06 |
| 公開情報 | 松竹映配 |
| リバイバル | 1973/04 [ヘラルド] 2014/09/27 [マーメイドフィルム] (デジタル・リマスター版) |

【解説】

1880年代の西部を舞台に、様々な人物模様を乗せたまま、アリゾナからニューメキシコへと疾走する一台の駅馬車を描いたジョン・フォードの痛快西部劇。医者、商売女、酒商人、銀行頭取、大佐夫人、賭博師、保安官、御者、それにお尋ね者のリンゴオ・キッドを加えた8人の道行きを、短い場面やセンテンスに凝縮させた脚本の巧みさ。そして、クライマックス、ダイナミックかつスピーディに展開されるアパッチの襲撃シーンの凄さを語るのに、今さら付け加えるべき言葉はない。だが、当然の事ながらフォードの演出が冴え渡るのは何もアクション・シーンに限っての事ではなく、リンゴオ（ウェイン）と商売女ダラス（トレヴァー）の感情の触れ合いを始め、キャラクターの成長と変化をさりげなくも効果的に描き出している。役者陣も皆良く、中でも酔いどれ医師に扮したT・ミッチェルはアカデミー助演男優賞を受けた（オスカーは他に作・編曲部門にも与えられた）。アメリカ映画、いや全映画史に燦然と輝く娯楽映画の金字塔である。どこを切り取っても名場面、それがその証明だ。

【クレジット】

| | | | |
|-------|--------------|------------------|------------|
| 監督 | ジョン・フォード | John Ford | |
| 製作 | ジョン・フォード | John Ford | (クレジットなし) |
| 製作総指揮 | ウォルター・ウエンジャー | Walter Wanger | |
| 原案 | アーネスト・ヘイコックス | Ernest Haycox | |
| 脚本 | ダドリー・ニコルズ | Dudley Nichols | |
| 撮影 | バート・グレノン | Bert Glennon | |
| 音楽 | ボリス・モロス | Boris Morros | |
| | リチャード・ヘイグマン | Richard Hageman | |
| | W・フランク・ハーリング | W. Frank Harling | |
| | ジョン・レイポルド | John Leipold | |
| | レオ・シューケン | Leo Shuken | |
| | ルイス・グルーエンバーグ | Louis Gruenberg | |
| 特殊撮影 | レイ・ビンガー | Ray Binger | |
| 出演 | ジョン・ウェイン | John Wayne | リンゴ・キッド |
| | トーマス・ミッチェル | Thomas Mitchell | ジョシア・ブーン医師 |
| | クレア・トレヴァー | Claire Trevor | ダラス |
| | ルイーズ・プラット | Louise Platt | ルーシー・マロリー |
| | ジョン・キャラダイン | John Carradine | ハットフィールド |

| | | |
|-------------|------------------|--------------------|
| ドナルド・ミーク | Donald Meek | サミュエル・ピーコック |
| ジョージ・バンクロフト | George Bancroft | カーリー・ウィルコックス保安官 |
| アンディ・ディヴァイン | Andy Devine | バック |
| バートン・チャーチル | Berton Churchill | エルスワース・ヘンリー・ゲイトウッド |
| トム・タイラー | Tom Tyler | ルーク・プラマー |
| ティム・ホルト | Tim Holt | ブランチャード |
| フランシス・フォード | Francis Ford | |